



(京都西南部)

京都・平安京右京八条二坊十二町

1 所在地 京都市下京区御所ノ内本町

2 調査期間 一九八六年（昭61）八月

3 発掘機関 勝京都埋蔵文化財研究所

4 調査担当者 久世康博

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 平安時代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査はマンション建築工事に伴う立会調査である。当該地は右

京八条二坊十二町に推定されており、調査地は同町の北東隅に位置する。

調査の結果、現地表の下

- ・八・〇・九mで、南北溝（SD一）、東西溝（SD二）、北東から南西に斜行する溝（SD三）計三条の溝を検出した。当研究所の条坊復元に基づくと、SD一は西堀川小路西側溝、SD二は梅

小路南側溝と考えられる。それぞれの溝から平安時代後期の遺物が出土している。木簡が出土した遺構はSD三である。出土した遺物は木製品のみで土器はなかつたが、層位関係よりみてSD一・二より新しい時期のものである。木簡の釈読にあたつては、川嶋将生氏（京都市歴史資料館）の協力を得た。

8 木簡の釈文内容

(1) ×□吉

(122)×22×6 019

(1)の上部は燃えたような痕跡が見られる。他に上端部付近に切り込みのある木片が一点出土したが、墨書は見られない。

9 関係文献

京都市文化観光局・勝京都埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報』（一九八六年）

（久世康博）